

# 一般用医薬品の服用により生じた副作用症例の具体例

副作用の例	原因と疑われる医薬品の一例	初期症状	病態	実際のケース
皮膚粘膜眼症候群(ステイブンス・ジョンソン症候群)	解熱鎮痛消炎剤(指定第2類)等	「高熱(38℃以上)」、「目の充血」、「めやに(眼分泌物)」、「まぶたの腫れ」、「目が開けづらい」、「くちびるや陰部のただれ」、「排尿・排便時の痛み」、「のどの痛み」、「皮膚の広い範囲が赤くなる」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>高熱(38℃以上)を伴って、発疹、発赤、やけどのような水ぶくれなどの激しい症状が比較的短期間に全身の皮膚、口、目の粘膜にあらわれる。</li> </ul>	一般用医薬品Aを2日間服用。発熱等の症状が発現し、近医受診。風邪と診断後、発熱、発疹、びらん等の症状発現し入院。(30歳代男性)
ショック(アナフィラキシー)	総合感冒薬(指定第2類)等	「皮膚のかゆみ」、「じんま疹」、「声のかすれ」、「くしゃみ」、「のどのかゆみ」、「息苦しさ」、「どうき」、「意識の混濁」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>急性の過敏反応により、投与後多くの場合は30分以内で、 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ じんま疹などの皮膚症状や、</li> <li>➢ 腹痛や嘔吐などの消化器症状、</li> <li>➢ 息苦しさなどの呼吸器症状を呈する。</li> </ul> </li> <li>突然、蒼白、意識の混濁等のショック症状があらわれる。</li> </ul>	一般用医薬品Bを服用。30分から1時間後に手・顔面・体幹に皮疹、呼吸苦出現し救急外来受診。アナフィラキシーショックの診断で入院。受診時、血圧低下、全身の紅斑あり、ステロイド、昇圧剤で軽快。(20歳代女性)
中毒性表皮壊死融解症(ライエル症候群)	総合感冒薬(第2類)等	「高熱(38℃以上)」、「目の充血(じゅうけつ)」、「くちびるのただれ」、「のどの痛み」、「皮膚の広い範囲が赤くなる」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全身が広範囲にわたり赤くなり、全身の10%以上にやけどのような水ぶくれ、皮膚のはがれ、ただれなどが認められ、</li> <li>高熱(38℃以上)、皮膚や口にできるぶつぶつ、目が赤くなるなどの症状を伴う重症の皮膚障害。</li> </ul>	感冒症状あり。一般用医薬品Cを服用。高熱、眼充血、全身の水疱形成があり、近医入院。(20歳代男性)